

駒澤書翰



第4号

発行日：
2023年4月16日
発行所：
株式会社エヌワイケー
〒154-0012
東京都世田谷区駒沢5-7-6
電話：
03-3704-8391
FAX：
03-3703-7121
発行人：
横山和俊

販売店よりお知らせ

新聞整理袋の有料化について

経済産業省のシジ袋有料化の指導により新聞整理袋は有料となります。50枚入り1セット550円にて販売しています。読み終えた古新聞の回収処分も行っております。弊社までご連絡ください。

購読料のお支払い方法について

新型コロナウイルス感染症拡大防止並びに防犯の観点から、対面での購読料のお支払いは受付していません。現在対面にて購読料をお支払いいただいているお客様は以下の方法へ変更をお願いします。クレジットカード決済・口座振替・コンビニエンスストアでの払込。なお詳細は弊社へお問い合わせください。

所長のひとり言 ー外国特派員が見たー

お世話になります、所長の横山です。「所長のひとり言」のコーナーでは、私が日々新聞を読む中で気になった記事を紹介していきます。新聞は一覧性に優れた媒体ですが、たまには読み飛ばしをしてみようことがあります。「そんな記事があったんだ」など、日々の閲覧の一助になれば幸いです。

以前、「こじがへんだよ日本人」なるバラエティー番組が放送されましたが、私たちが常識だと思いがちなことでも、世界から見れば常識、もしくはおかしな習慣であることが少なくありません。私も他人に指摘され常識だと思っていたことが世間では非常識だったなんてことはよくあります。今回は新聞版「こじがへんだよ日本人、東京に在住する」外国特派員が見た「毎日新聞デジタル連載」コラム「私が思う日本」を紹介いたします。記事は3月20日付毎日新聞から。

まずは朝鮮日報（韓国）の成好哲（ソンホチョル）東京支局長が、美容院での体験から選択的夫婦別姓について考えます。成支局長の妻は、ソウル在住時より「日本の美容院は韓国よりカラーリングがしっかりしている」との理由で、東京出張の度に利用していた。昨年の5月に家族3人で東京に引っ越ししてきたから、妻だけでなく私と娘もその美容室を利用している。以前からの付き合いもあり妻が私たちの予約担当となった。娘の名前は成守彬（ソンズビン）。しかし、予約名は「李守彬（リスビン）」となってしまった。韓国は夫婦別姓だから妻は夫の姓にならず、結婚後も同じ性のままで。だから私の妻も結婚前の姓の「李」を引き続き使用している。つまり、その美容院では、最初に会員登録した妻の姓が「李」だったため、後に登録した娘は下の名前だけ聞かれ「李守彬」となってしまった。日本では法律で夫婦同姓が定められている。ゆえに美容院の店員は、家族全員が同じ姓だと信じ切っている。当然、私も「李好哲」になった（笑）。多くの日本人は、夫婦同姓は当然であり、諸外国もそうだと思うかもしれない。だが日本のように法律が夫婦に対して一つの姓に統一するように義務付ける国は、世界的に見てもかなり珍しい。そもそも全ての人が身分にかかわらず自分だけの氏名を持つようになったのは、数千年の人類の歴史の中でもつい最近のことだ。日本での万人による氏名の保有は、身分制度を廃止した近代の始まりであり、むしろ、徴税・徴兵という富国強兵の前提条件のようなものだった。外国人の私の目から見ると、選択的夫婦別姓制度の何が問題なのか理解できない。一部で「伝統的な家族観が崩壊する」との懸念もあるが、では諸外国の家族観は日本と全く異なるものなのだろうか。日本人から見ると、韓国人の家庭は崩壊しているように見えているのだろうか。現代社会では、夫婦同姓を法的に義務付けることでむしろ不利益を被る人もいる。岸田文雄首相は「制度を改

正すとなると、すべての国民にとっても家族観や価値観、そして社会が変わってしまう問題だ」と答弁した。しかし、本当はこう答弁すべきではなかったか。「家族観、価値観、社会は変化しているのに、法や制度が対応できていない」と。

そしてもう一人、プロトム・アロ紙（バングラデシュ）のモンズルル・ハック東京支局長が日本の少子化問題について記します。祖国のバングラデシュは現在、人口1億6000万人。出生率は人口をほぼ維持できる水準にある。しかし、近年世帯当たりの平均人数は著しく減少している。世帯人数には社会集団ことに偏りがある。富裕層では子供が1〜2人というケースが一般的になったが、貧困層、とりわけ農村部の家庭ではたくさん子供を産む傾向にある。年若い働けなくなったたり、障がいを負ったりしたら子供に家計を任せて世話をしてもらおうという考えがその背景にある。対照的に日本では将来の安全のためにたくさん子供を産むという動機はほとんどない。これはバングラデシュほど大きな格差に直面しているわけでもなく、信頼が下がっているとはいえず、年金や保険制度に対する安心感からきているのだろう。しかし、長期的には深刻な問題になるかもしれない。国家の政策は国民の税金に依存しているからだ。普通に考えても人口が減れば税収が減り、社会保障に影響を及ぼす。根本は出生率の回復だが、解決策の一つとして移民に対して門戸を開き、家族での定住を進めることも考えなくてはいけない。しかし、各国で移民の社会統合が大きな問題になっているように、日本でも予期せぬ結果を招くだろう。日本はかなり均質な社会であり、移民統合はより大きな問題になる可能性がある。日本もかつては子供の数が多かった。当時あった習慣から役立ちそうなものを見つけ、復活させなければ多産社会の再来は難しいのかもしれない。

夫婦別姓も含め家族の形を柔軟にしていこうことは少子化対策として有効なはずですが。法制審議会（法相の諮問機関）が夫婦別姓の導入を答申してからすでに25年がたっているそうです。岸田首相の「慎重に議論する」という期間はとうに過ぎているのではないのでしょうか。たしかに過去の少子化対策は実を結んできませんでした。裏を返せば少子化をもたらす要因が多様で複合的だからなのでしょう。少子化問題は私も新聞を読むテーマの一つとしています。一人でも多くの人の子供を希望し、かつ現実に子供を持つことができる社会になることを切に望みます。

スタッフ紹介 — 栗飯原守興（あいはらもりおき） —

今号より弊社スタッフを紹介していきます。初回は主任の栗飯原守興（あいはらもりおき）です。

お世話になります。主任の栗飯原守興です。1985年生まれ徳島県三好市出身です。私も所長と一緒に馬込店より今年の2月に移動してきました。馬込店では10年以上勤務していました。駒沢店ではエリアの把握、個別対応案件など慣れない部分もありご迷惑をかけるかもしれません。できるかぎりの迅速に対応してまいります。私は馬込店時代、一念発起しオートバイの免許を取得しました。早速オートバイを購入しましたが、普段配達で使用している原付と大違いで悪戦苦闘しました。私はいつも困難にぶつかるとすぐ逃げてしまう癖がありました。そのことをよく自覚している私は、これはその悪い癖を克服するチャンスをお客様がくれた、と思うようにしました。ならばと、400ccの中型オートバイすらまともに乗れないのに大型免許にチャレンジしました。まずは中型で練習しようと思っていましたが、奇跡的な出会いが。ふらっと寄ったオートバイ屋さんで憧れのバイクの極上中古車に出会ってしまいました。悩みに悩み購入しました。大型バイクでは、体の小さい私は足もまともにつかずさらに難儀しています。お客様のくれたせっかくのチャンス、怖さで負けずオートバイに乗っています。

次回第5号は2023年5月21日発行予定です

